

# 劇団民藝公演

演出  
作  
高橋清祐  
中島裕一郎  
吉永仁郎  
演出  
補演出  
高橋清祐  
中島裕一郎  
吉永仁郎  
舞台監督  
藤澤徹  
装置  
勝野英雄  
照明  
松島勉  
衣裳  
宮本宣子  
効果  
岩田直行  
美術  
深川絵美  
伊藤孝雄  
小杉勇二  
松田史朗  
千葉茂則  
境賢一  
みやざこ夏穂  
梶野稔  
岡山甫  
塩屋洋子  
白石珠江  
河野しづか  
印南唯



描くことは生きること、愛すること  
— 洋画家・中村舞と「中村屋サロン」に集う人びとが織りなす一時代のポートレート —

# 大正の肖像画

# 大正の肖像画

作＝吉永仁郎  
演出＝高橋清祐

補演出＝中島裕一郎



彗星のように画壇に現れ、大正期に活躍した洋画家・中村舞。

肺結核に侵されながらも画業に励み、新進の作家として注目された頃の舞が縁あつて住むことになったのは、中村屋裏のアトリエでした。新宿の老舗中村屋の創業者、相馬愛蔵・良(黒光)夫妻がパン屋をこの地に移したのが明治四十二(一九〇九)年。急速に発展した新宿という地の利を得て店は栄え、美術家、詩人、小説家、学者、俳優などが出入りする文化サロンの役割を果たしていたのです。はじめサロンの女王相馬良に惹かれた舞の気持が、夫妻の娘俊子に移ったことから、やがて舞は中村屋を去ることに。舞を待っていたのは、病苦と孤独に耐え、命を賭して更なる高みを目指した苦闘の日々でした……。

「静かな落日」「集金旅行」の吉永仁郎による評伝劇。初演時には「百

年近くも前に、流されず、自分たちの心や魂に忠実に生きた人ひとがいたことに感動」「吉永戯曲の重厚さと品格が今回も光っています」などの声が寄せられました。激動の昭和を目前にして薄日の差し

た大正の時代をさまざまに生きた人びとの姿が遺された数々の肖像画とともに生き生きと蘇ります。



松田史朗



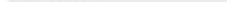
中原悌二郎



みやざき夏穂



中村舞「画家」



黒木良



河野しづか



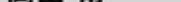
白石珠江  
神近市子「大杉の協力者愛人」



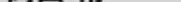
岡山 甫



山村巡査「エロシェンコの尾行」



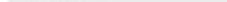
梶野 稔



伊藤孝雄  
相馬愛蔵「中村屋の主人」



小杉勇二



千葉茂則  
エロシェンコ「放浪のロシア人」



岡崎キイ「舞の家政婦」



塩屋洋子  
相馬良「愛蔵の妻」



印南 唯  
相馬俊子「相馬夫妻の娘」